



北海道エアシステムのカウンター

函館空港から奥尻空港まで1日1便、30分間のフライト。JALグループの北海道エアシステムがプロペラ機で結んでいます。

11時40分。函館空港から飛行機が動き出します。低空で飛行するため、眼下に広がる雄大な自然を近い距離で楽しめるのも、魅力の一つです。春には木々が一齐に芽吹き、花が山々を飾る姿を見ることができましょう。しかし、搭乗当日は、雪で真っ白に覆われた冬の景色でした。ふと、奥尻空港のスタッフと打ち合わせをした際、電話口で「冬に来てでも、奥尻島にはなんにもないよ」と笑っていたのを思い出します。

12時10分。飛行機が奥尻空港に到着しました。空港ロビーまでは徒歩での移動です。飛行機を出た瞬間「さ、寒い」。着陸前のアナウンスで「気温

るお客さまも多く、スタッフは、車を利用されるお客さまの情報をご予約名簿などから把握し、少しでもご負担が軽くなるように事前に準備を行っています。

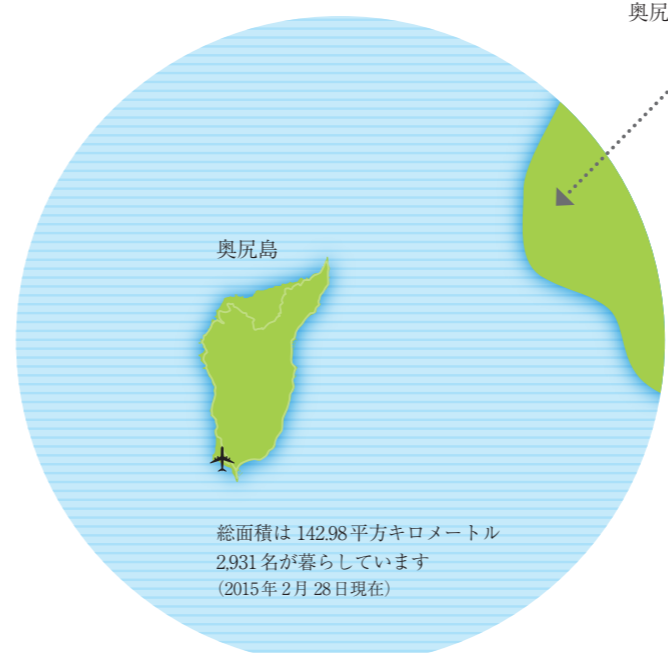
奥尻島の歴史として、切り離すことができない記憶があります。北海道南西沖地震です。1993年7月12日午後10時17分、マグニチュード7.8、推定震度6の大地震。震源域が島のすぐ近くだったため、地震後3〜5分というかつてない速さで津波に襲われました。その最高到達点は29mにも達し、多くの尊い命が奪われました。津波対策として防潮堤などの整備が進み、5年後の1998年3月、奥尻島は完全復興を宣言します。今、目の前に広がる海は穏やかそのもので、当時を思うと複雑な思いが胸に迫ります。



震災の記憶と教訓を今に伝える「奥尻島津波館」

空 | 港 | 探 | 訪

冬の離島のあたたかなおもてなし



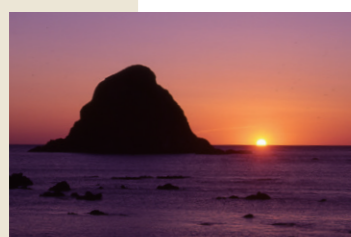
マイナス2度」と聞いてはいましたが、海のすぐそばにある奥尻空港では、強い潮風がさらに体感温度を下げます。お客さまが飛行機を降りる間、スタッフはお客さまの安全確保も兼ねてお出迎えします。「ご搭乗ありがとうございます。おかげさまで」

復興宣言後に新たな産業として誕生したのが、「奥尻ワイナリー」です。日本初の離島ワイナリーは、1999年に島に自生する山葡萄の苗木を植えるところから始まりました。2001年にはワイン専用のブドウ品種の栽培を開始。2004年には台風による塩害を乗り越え、2009年に初出荷を実現しました。北海道エアシステムでは、奥尻町や観光協会など地域と一体となって奥尻島を盛り上げる取り組みを行っています。その一つとして、奥尻ワインを機内誌で紹介したり、北海道エアシステムオリジナルラベルの奥尻ワインをイベントで活用させていただくなど、多くの方にその魅力を知っていただけるよう微力ながらご協力をさせていただいています。また、JALグループが取り組んでいる「JAPAN PROJECT」※

では2015年2月に函館市とコラボレーションした際に、奥尻ワイナリーのメルローを羽田空港の国内線のダイヤモンド・プレミアラウンジで提供させていただきました。島内を巡る途中に出会った地元の方のなかには「よくこつたら遠い」と言われ、わざわざ来たもんだア」と声をかけてくださる方も。話を聞けば、奥尻島に観光で訪れるお客さまは、旅館や民宿の女将さんの人柄に惚れて、観光を忘れて一日中話をして帰る方も少なくないのだそうです。



奥尻島の土地に合う栽培方法を探求しつつ、一つ一つ丁寧に作られたワインは、現在は北海道でも有数の出荷数となりました



海岸線から見える奇岩をながめると、あっという間に時間が過ぎていきます



これから訪れる夏は採れたてのウニやイカがおいしい季節です



窓には四季折々の美しい景色が広がります

青い海といえば南のイメージですが、奥尻島も負けてはいません。その美しさからオクシリブルーと呼ばれています



※ JAPAN PROJECT JALグループが2011年5月から実施している地域活性化プロジェクト。月ごとに日本の各地域とコラボレーションし、機内誌・機内ビデオ・機内食などの媒体やラウンジをはじめとしたお客さまとのサービス接点をとおして、「日本の素晴らしさ」を発信することで観光需要の創出につなげることを目的としています。2015年3月までに45の県・地域の情報を発信しています。